

- ・青少年を非行・被害から守る県民大会
- ・岩手県青少年育成県民会議表彰
- ・青少年育成セミナー
- ・アイーナ10周年事業
- ・復興バザー
- ・内閣府特命担当大臣表彰
- ・青少年地域活動支援事業「劇団 amaze」



青少年 いわて

青少年とともに歩んで



2016
08

「平成28年度青少年を非行・被害から守る県民大会」 “社会を明るくする運動”～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～



講演

「～デジタルネイティブたちと如何に向き合うか?～
共感的な間柄の今日的築き方」
浅間 正通 氏

意見発表

「わたしの主張岩手県大会」
最優秀賞
「支えられている命だから」
佐々木 瑠海 さん

作文発表

「社会を明るくする運動」作文コンテスト
岩手県推進委員会委員長賞
「人を想う」
杉田 宗生 さん

アトラクション

「非行・被害防止啓発演奏会」
岩手県警察本部音楽隊

7月21日(木)「平成28年度青少年を非行・被害から守る県民大会」をいわて県民情報交流センター(アイーナ)7階小田島組☆ほ～るで、県内の関係機関や団体など約450名の参加を得て開催しました。

意見発表では、昨年度「わたしの主張岩手県大会」最優秀賞の佐々木瑠海(ささきるみ)さんが、「支えられている命だから」と題し発表、また作文発表では“社会を明るくする運動”作文コンテスト岩手県推進委員会委員長賞の杉田宗生(すぎたしゅうき)さんが、「人を想う」と題し発表しました。

アトラクションでは、県警本部音楽隊が素晴らしい演奏やスマートフォンの正しい使い方を交えた寸劇を披露しました。

講演では、情報社会論及び異文化間コミュニケーション論を専門とされている東洋大学の浅間正通(あさまさみち)教授から「～デジタルネイティブたちと如何に向き合うか?～共感的な間柄の今日的築き方」と題したお話をいただきました。

大会の最後に岩手県青年団体協議会の松田恵美子会長から、青少年の非行・被害防止のための決議提案があり、参加者からの拍手をもって採択され、閉会しました。



大会決議表明
松田 恵美子 氏

毎月第3日曜日は いわて家庭の日

岩手県青少年育成県民会議では、青少年を守り育てる運動として
「いわて家庭の日」を主唱しています。

推進協力：岩手県・岩手県教育委員会・岩手県警察本部

講演要旨「～デジタルネイティブたちと如何に向き合うか?～ 共感的な間柄の今日的築き方」



あさま まさみち
講師：浅間 正通 氏



未来学者アルヴィン・トフラーは、著書「第三の波」で、農業社会から工業社会、次に来るのが情報社会と予測した。パソコンを使う電子化事務所や電子化家庭を描き、仕事を家庭に持ち込めるから、家族の会話が増え絆が強まるとしたが、情報社会の最先端の現代デジタル社会では、子どもたちは携帯電話を使い誰とどんな会話をしているのか分からない。コミュニケーションがパーソナル化（個別化）し、家族関係は希薄化している。

デジタルはいわば「点」、点から点へ素早く飛ぶ。アナログは「線」、レコードのようにグルグル回る。デジタルは余計なものを削ぎ落とし一人でい

て何でもできる。だからデジタル社会では余暇が生まれ、人間社会が潤うと未来学者は考えた。今、大人たちは携帯電話を手放せず時間に追われている。

デジタルネイティブとは、1990 年代後半に生まれ、デジタル機器や電子メディアに囲まれ育った若者たち。デジタル社会は、カーナビのように目的地に行くのに人の手を煩わせない、パーソナル化を志向する社会。それが若者の考え方や人間関係を変えている。

日本と同じデジタル大国フィンランド、EUのうち生活満足度はトップ。一方、OECD 諸国で日本人の幸福度は平均を下回っている。教育立国で著名なフィンランド、核心は“Miksi?”（なぜ?）、結論より、そこに至るプロセスを大事にし、「なぜ、なぜ」と問いかける。これは「線」を辿る教育。デジタル機器を駆使する「点」の教育と Miksi=「線」の教育が巧みにコラボしている。

私の教師経験から言えるのは、直ぐ結果を求めずに、生徒を尊重し、彼らから共感を得ること。これは「点」の教育ではできない、余計なものも含めて「線」を辿る教育を大切にしたい。



講師 浅間 正通 氏 プロフィール
・島根県出身
・1996 年より静岡大学大学院情報学研究科兼任教授
・2013 年より静岡大学ライフデザイン学部教授
・専門は情報社会論及び異文化コミュニケーション論
・異文化間情報ネクスラス学会会長

岩手県青少年育成県民会議表彰



6月15日(水)、公益社団法人岩手県青少年育成県民会議通常総会の席上、県内各地域で青少年健全育成の優れた活動を展開している方々に対する「岩手県青少年育成県民会議表彰」を行いました。

この表彰は、県内各地域で、青少年の育成活動、支援活動、自主活動等に永年取り組まれ、多大な功績のあった方々を表彰するもので、青少年育成活動団体2団体、青少年育成指導者3名の表彰を行いました。

日時：平成28年6月15日(水)
14:30～16:00(表彰・総会)

会場：アイーナ8階 804-A 会議室

表彰団体・表彰者一覧

- 青少年育成活動団体 (2 団体)
花巻ライオンズクラブ (会長：晴山正一)
宮古市子ども会育成会連合会 (会長：刈屋裕之)
- 青少年育成指導者 (3 名)
山崎義勝 (所属：日本ボーイスカウト岩手連盟)
松村とく子 (所属：ガールスカウト岩手県連盟)
菅原ユウ子 (所属：一関勤労青少年ホーム)



宮古市子ども会育成会連合会会長
刈屋 裕之 氏



花巻ライオンズクラブ会長
晴山 正一 氏



日本ボーイスカウト岩手連盟
山崎 義勝 氏



ガールスカウト岩手県連盟
松村 とく子 氏

※菅原ユウ子氏（一関勤労青少年ホーム）は所用のため欠席

平成28年度

第1回青少年育成セミナー

(研修会及び意見・情報交換会)

日時:平成28年7月8日(金) 10:00~15:30

会場:アイーナ6階 団体活動室2・3

参加人数:32人

7月8日(金)、アイーナ6階団体活動室2・3で、「第1回青少年育成セミナー(研修会及び意見・情報交換会)」を開催しました。午前中の意見・情報交換会では、各団体が抱えている課題を話したあと、発達障がいの子どもの対応について、意見交換をしました。病名を付けられた方が、本人も安心するし、福祉サービスも受けられるが、見極めが難しいという、親が認めたくない傾向があるという意見が出ました。対応の方法を学ぶ必要性を再確認しました。



講演「ネットワーク社会における人間関係-インターネットとケータイが社会を変えた-」

講師:東洋大学社会学部教授 ^{うみの}海野 ^{びん}敏 氏

≪講演要旨≫



わずか20年でメディア環境は激変した。デジタル世代論によると、大きく4つの世代(デジタルイミгранト、PCデジタルネイティブ、ケータイ・デジタルネイティブ、ネオ・デジタルネイティブ)に分かれ、各世代において、感性、思考、行動が異なる。



ネットワーク社会は、情報の充実化と人的交流の活性化を促進した一方、様々な悪意を効率的に流通させ、永続的に蓄積し、匿名による無責任な行為を増殖させた。



デジタル世代の対人関係は、必ずしも希薄化はしていないが、友人関係が多様になり、それらが選択的に使い分けられるようになった傾向がある(関係選択化説)。また、気の合う仲間とだけ付き合い、異質な他者は遠ざけられる傾向もある(関係同質化説)。

メディア環境が青少年の感性、思考、行動を変えることを認識して教育を行うことが必要。



講師 海野 敏 氏 プロフィール

- ・1961年、東京生まれ。
 - ・2004年より東洋大学社会学部メディアコミュニケーション学科教授。
 - ・専門は情報学。
 - ・情報学の研究と並行して、舞踊評論家として活動。
- ホームページ: <http://www2.toyo.ac.jp/~umino/>

アイーナ10周年記念イベント

徳じいのバッテリー村移動教室・段ボール迷路

日時:平成28年5月8日(日) 13:30~16:00

会場:アイーナ6階 ラウンジ

内容:「徳じいのバッテリー村移動教室」「段ボール迷路」



いわて県民情報交流センター(アイーナ)は、今年5月8日で10周年を迎えました。館内ではこの日、様々なイベントが開催されました。青少年活動交流センターでは、高齢者社会貢献活動サポートセンターと共催で、「徳じいのバッテリー村移動教室」を開催しました。コマ回し遊びでは、子ども達がひもを巻いては器用にコマを回していました。また、段ボール迷路も設置し、ボランティアが見守る中、子ども達が何度もチャレンジして、にぎやかな声が響いていました。



第13回三陸を応援!復興バザー

日時:平成28年6月18日(土) 10:30~15:30

会場:アイーナ4階 県民プラザ・アイーナスタジオ

売上:101,390円(岩手県災害義援金募集委員会へ募金)

募金箱:6,702円(熊本地震義援金に利用)



6月18日(土)、アイーナの4階にて、恒例の復興バザーが開催されました。青少年活動交流センターから5人のボランティアが、衣料品や雑貨を売るブースを担当しました。商品の陳列や、価格の設定をし、来場者に積極的に声掛けをして、初めてとは思えない対応をしていました。売上金の101,390円は岩手県災害義援金募集委員会に、熊本地震義援金募金箱の6,702円は、熊本県に寄付しました。



次回の開催は10月2日(日)を予定しています。

大村千恵氏(奥州市水沢青少年育成市民会議事務局次長) 「内閣府特命担当大臣表彰」受賞



内閣府特命大臣表彰とは、子供や若者の健全な育成を目的に、子供や若者の育成支援並びに子育てを支援する活動に対して顕著な功績があった企業や団体、個人を対象に内閣府特命担当大臣より表彰を受けます。

そんな内閣府特命大臣表彰を受賞された奥州市水沢青少年育成市民会議事務局次長の大村千恵さんよりコメントをいただいています。

大村 千恵(おおむら ちえ)氏

- ・奥州市水沢青少年育成市民会議事務局次長
- ・平成11年に廃署となった消防署を利用して、居場所スペース「ホワイトキャンパス」を設立。
- ・「主役は子供、大人は黒子」を基本に子供の自主的交流を促進。
- ・「水沢方式成人式」のプランナーとして全国の成人式にも影響を与えている。

多くの皆様のご支援やご指導をいただきながら、ひたすら目の前の課題に向き合う日々でした。感謝の気持ちでいっぱいでございます。「一人でも多くの子どもを幸せにしたい」との思いが原点にあります。子どもの真の幸福は自立して社会に船出することと考え、社会性や自主性を育む場として「子どもの居場所」を開設しました。多くの子どもたちが自らの能力を発見し、次のステップへと巣立っていきました。しかし、中には深刻な課題を抱えた青少年もやってきます。容易に解決策は見出せませんが、必要などころにこそ教育や福祉は施されなければならないと思います。課題の根源は親子や家族に行きつきます。『家族からの手紙』方式の奥州市成人式も源流は同じ。疎遠になった親子ほど、一筆箋に思いを託しあい、互いの絆を取り戻してほしいと願っています。お腹も心も飢餓を抱える子どもが増えています。声にならない心の叫びに耳を傾けながら、今後も子どもたちに寄り添い向き合っていきます。

青少年育成地域活動支援事業

特別公演

劇団 amaze ~アメイズ~

『志記』



盛岡市及び周辺地域の高校生による「劇団 amaze ~アメイズ~」の特別公演『志記』が、5月4日、盛岡劇場で上演されました。この劇団は、学校の垣根を越えて集まった高校生12人により、今年2月に結成され、授業や部活の合間を縫って練習を重ね本番を迎えました。



脚本はメンバーの作ったオリジナルで、近未来の高校生の話であり、2回公演で約130名の来場者がありました。

来場者からは、「一人一人が一生懸命な姿に感動した」「高校生が脚本、演技、裏方まで全てやったことに驚いた」等の感想を寄せられ、団員も周囲に助けられながらも、やり遂げたことに自信を持ち、今後も活動を継続していきたいと思いを新たにしました。



みたけがはらまつり at 岩手県青少年会館

9/3 (土)

もち撒きや抽選会、チャレンジゲーム等、参加して楽しめるイベントやバザーやグルメ等の屋台も多数出店して、子供から大人まで、誰でも楽しむことができるお祭りを開催します。家族や友達、みんなで遊びに来てね!

日時：平成28年9月3日(土)
9:30~15:00(小雨決行)
会場：岩手県青少年会館
(盛岡市みたけ3丁目38-20)



第3回いわて親子フェスティバル in アイーナ

10/2 (日)

「1日中アイーナで遊ぼう」をコンセプトに親子で楽しめる企画が満載!!

親子で金メダルを目指す「遊びリンピック」や科学の不思議を体験できる「リコーサイエンスキャラバン」、親子で作る「モノづくりコーナー」など、色々な体験がみんなを待っている! 10月2日はアイーナに集合だ!!

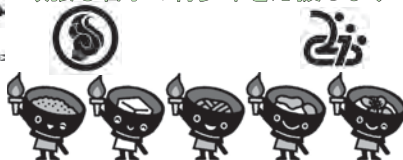


2016 希望郷 いわて国体

頑張る岩手の青少年を応援します

第71回国民体育大会 広げよう 感動。伝えよう 感謝。

本大会：2016/10/01(土)~11(火)
水泳競技：2016/09/04(日)~11(日)



2016 希望郷 いわて大会

第16回全国障害者スポーツ大会 広げよう 感動。伝えよう 感謝。

2016/10/22(土)~24(月)